

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.656 ★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会(1~4頁)

定価60円 会員の購読料は
会費の中に含まれる

公益社団法人 読書推進運動協議会 2022年度 定時総会

コロナ後の社会を見すえて 読書をきっかけに「つながり」の復活を



総会議事を進行する
野間会長

6月15日(水)午後3時より、東京都千代田区の出版クラブビル会議室において、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2022年度 定時総会」が開催された。

野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を進めた。最初に事務局より、今回の出席会員は28名、委任状提出会員は186名、合計214名であり、定款第17条の規定による定足数、総会員の過半数130名を超えたので、総会は成立していることが報告された。

定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間会長、成瀬雅人常務理事、岡本功理事の3名が指名された。

第一号議案は「2021年度

事業報告書および決算報告書」承認の件。2021年度 事業報告書については、齋藤健司事業委員長に代わり、小塚昌弘事務局長から報告が行われた。つづいて「2021年度 決算報告書」については、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などについては、宮原博昭財務委員長に代わり、小塚事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して春井宏之監事が、本決算は公正かつ正確であることを認証するとの監事報告を行った。議長は出席会員に諮り、それぞれ全員異議なく承認可決された。

第二号議案は「役員交代」承認の件。読書推進運動協議会の役員の任期は2年であり、本年は改選期ではないが、本日付で一般社団法人 教科書協会推薦役員の千石雅仁理事、一般社団法人 日本雑誌協会推薦役員の山縣裕一郎理事が辞任し、後任として教科書協会からは星野泰也、日本雑誌協会からは中部嘉人の2名がそれぞれ推薦された。定款第22条の規定に従い、議長は以上の辞任、推薦について出席会員に諮り、全員異議なく原案通り承認可決された。

なお、新任の役員2名の任期は定款第26条により、残り1年となる。

第三号議案は「2022年度 事業計画書および収支予算書」報告の件。2022年度 事業計画書と「2022年度 収支予算書」については、小塚事務局長から説明があり、いずれも、2021年度 第3回理事会で承認されたことが報告された。議長は出席会員に諮り、全員異議なく承認された。

野間議長による閉会の挨拶で総会は閉会したが、閉会后、別室にて2022年度 第2回理事会が開催され、定款第32条により新役員の役職が選定された。理事会終了後に総会会場で、役員の新たな役割分担が議長より報告され、すべての議事を終了した。

(敬称略)



総会会場は座席の間隔をとって
設営

■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸



本日はお忙しい中、公益社団法人読書推進運動協議会2022年度定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の襲来から3年目を迎えた2022年ですが、人も社会も大きく動き出してきました。

読書推進運動協議会が展開する読書推進事業についても、春の「こどもの読書週間」の行事主催者は、一昨年2020年こそ820件にとどまりましたが、昨年2021年は1700件に回復しました。

今年はさらに多くの行事が開催され、「読み聞かせ」や「おはなし会」「ワークショップ」などの活動も、対面で行える機会が増え

てきました。

また、読書推進運動協議会に事務局を置く「子どもの読書推進会議」が、主催団体のひとつとして参加しております。「上野の森親子ブックフェスタ2022」は、

5月3日から5月5日、2019年以来3年ぶりに上野公園で開催することができました。好天にも恵まれて予想以上の盛況でしたが、お客さまも本や著者と直接ふれあえる機会を待ち望んでおられたようです。

残念なことにコロナ下では「すぎもり生活」が続き、社会の孤立化や分断が進んでしまいました。また世界的にもさまざまな価値観の対立が際立ってきております。

こうした状況を乗り越えていくためには、まず相手の立場や考え

方を知ることが大切で、読書はそのための有力な手段です。

読書推進運動協議会は、これからもすべての方に、本に親しむきっかけを提供してまいりたいと存じます。

今後ともみなさまのご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶といたします。



総会終了後には、理事会が開かれ、役員の役職が決まった



2021年の「読書週間」ポスターは学校からの反響が特に大きかった

■2022年度 事業方針

読書推進の基盤、読書会・読み聞かせの重要性を

読書推進運動協議会は、おかげさまで2022年に創立63年を迎えます。歴史の蓄積の上に立ちながら、読書の未来を見据えてこれからも活動を継続してまいります。

この数年、新型コロナウイルス感染症の流行によって大きな影響を受けた読書推進運動ですが、ワクチン接種などの感染対策が進み、またMBCの活用などさまざまな工夫をこらすことによって、2021年度は活動が再び活発化いたしました。本協議会が主催する、春の「こどもの読書週間」、秋の「読書週間」におきましても、行事主催者数はほぼ例年並みに回復することができました。本協議会でもアフターコロナの時代に対応できるよう、新たな読書推進運動支援のありかたを模索してまいります。

また5年ごとに実施している「全国読書グループ調査」とその集計報告となる『全国読書グループ総覧』は、次回2023年度の調査と刊行に向けて準備を進めています。

「こどもの読書週間」「読書週間」の標語は、会員社のみならず、全国の図書館、そしてホームページで一般の方々にも呼びかけて募集しています。とくに販売会社や出版社には事業委員として深く関わっていただき、それぞれの社員の方々からたくさん応募をいただいています。2022年春の「こどもの読書週間」の標語は「ひとみキラキラ 本にときどき」に、秋の「読書週間」の標語は「この一冊に、ありがとう」に決定しました。こうした作業を進めるなかで、事業の認知度をより高めていくようにいたします。この数年は、図書館だけでなく、市町村の広報担当者からポスター画像の掲載について、問い合わせが増えてきました。

「読書週間」は、ポスターのイラストも一般から公募しており、2016年からは標語にあわせてイラストを公募し、標語と親和性の高い力作が多く寄せられ、ポスターも好評を得ています。「こ

2022 年度役員構成

順不同・敬称略

会 長	野間 省伸	日本書籍出版協会 (講談社社長)
副 会 長	平林 彰	日本出版取次協会 (日本出版販売取締役)
同	森 茜	日本図書館協会 (同顧問)
常務理事 (財務委員長)	宮原 博昭	日本雑誌協会 (学研ホールディングス社長)
同	齋藤 健司	日本書籍出版協会 (金の星社社長)
同 (事業委員長)	成瀬 雅人	日本書籍出版協会 (原書房社長)
同	矢幡 秀治	日本書店商業組合連合会 (真光書店社長)
同	設楽 敬一	全国学校図書館協議会 (同理事長)
同	田仲 幹弘	日本出版取次協会 (トーハン取締役副社長)
理 事	秋本 敏	日本図書館協会 (同図書館事業委員会委員長)
同	岡本 功	日本書籍出版協会 (ひかりのくに社長)
同	星野 泰也	教科書協会 (数研出版社長)
同	中部 嘉人	日本雑誌協会 (文藝春秋社長)
同	渡部 正嗣	日本出版取次協会 (日教販社長)
監 事	春井 宏之	日本書店商業組合連合会 (正文館書店社長)
同	竹村 和子	全国学校図書館協議会 (同常務理事・事務局長)
同	佐藤 潤一	日本書籍出版協会 (福音館書店社長)

事務局長 小塚昌弘

「子どもの読書週間」のポスターにつきましては、2014年より絵本作家・荒井良二さんにイラストを、グラフィックデザイナー・杉浦康平さんにデザインをお願いしております。

読書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦のもとに選ばれる「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

コロナ禍は一面では社会の変化を加速させ、公共図書館でのデジ

タルサービス導入、教育のIT化、読書推進運動におけるSNSの活用などが促進されました。その一方で従来からの基盤である読書会、読み聞かせ会など、人となりが直接交流して行う読書推進活動の重要性はますます高まっております。全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約21万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリーフレットは、今年度も関係の団体を通じてお配りしていきます。学校や図書館からの問い合わせが多いのは、積極的に活用されている表れと思います。

機関紙「読書推進運動」は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。「優良読書グループの歩み」や、これまでの野間読書推進賞受賞者の活動など、読書推進運動の現場を積極的に紹介してまいります。

ホームページでの「読書週間」「子どもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評をいただいております。さらに魅力ある素材の提供に取り組んでいきます。



2022年の「子どもの読書週間」でPDFデータを提供したブックカバーとしおり

す。しかし、読書推進運動協議会のない都府県が、7つあります。こうした都府県にあらためて働きかけ、事業の活性化をはかっていきます。

2022年度 会員社の異動

入会会員社

○特別会員

株式会社 KPSホールディングス

ス

○一般会員

株式会社 原書房

株式会社

退会会員社

○特別会員

第一紙業 株式会社

○一般会員

株式会社 一声社

株式会社 大泉書店

株式会社 海竜社

株式会社 講談社コミッククリエイト

株式会社 ブティック社

三晃印刷 株式会社

誠和製本 株式会社

豊国印刷 株式会社

(第一紙業 株式会社、豊国印刷株式会社は株式会社 KPSホールディングスに継承)

会費社数 276
(2022年6月15日現在)

公益社団法人 読書推進運動協議会 2022年度事業		
名 称	期 間	内 容
2022 第76回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	・ 標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター6万5000枚を製作 ・ 雑誌広告を作成。雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・ 道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・ 「文字・活字文化の日(10月27日)」と連携 ・ 全国優良読書グループ表彰の実施 ・ 道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2022 第64回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	・ 標語を募集、標語選定事業委員会にて決定。ポスター6万枚を製作 ・ 道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・ 「子ども読書の日(4月23日)」「上野の森 親子ブックフェスタ」と連携 ・ 道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第52回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月7日	・ 読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰(2団体2個人が基本) ・ 贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2022 敬老の日読書のすすめ	敬老の日を 中心に	・ 高齢者を対象とした選定図書リーフレット14万3000部を製作 ・ 道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、書店、会員社などへ送付
2023 若い人に贈る 読書のすすめ	1月～3月	・ 新成人、高校・大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレット21万部を製作 ・ 道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
機関紙 『読書推進運動』	毎月	・ 機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・ 発行部数 約5500部 ・ 道府県読書推進運動協議会、会員社、全国の公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ	毎月2回更新	・ 団体事業の発信 ・ 機関紙バックナンバーの掲載 ・ 図書館、学校、書店の展示用に、新規素材のデータ配信を行う
受託、共催、後援、協賛		・ 「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・ 伊藤忠記念財団の「子ども文庫助成事業」の受託 ・ 文部科学省より「子ども読書の日」のポスター制作を受託 ・ 関連団体の読書推進事業を後援、協賛、協力

■学校図書館賞・学校図書館出版賞決定

子どもたちの未来を拓き、 地域と歩む論文・実践が受賞

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、「第52回 学校図書館賞」と「第24回 学校図書館出版賞」を決定し、発表した。

《今年度の受賞者》（敬称略）

第52回 学校図書館賞

《論文の部》

野口武悟「変化する社会とともに歩む学校図書館」（勉誠出版）（学校図書館大賞は該当なし）

第24回 学校図書館出版賞

株式会社 かがわ出版

事由Ⅱ『家族農業が世界を変える』（全3巻）／関根佳恵 監修・著の刊行

株式会社 新日本出版社

事由Ⅱ『シリーズ戦争 子どもたちが綴った戦争体験』（全5巻）／村山士郎 著の刊行

株式会社 文研出版

事由Ⅱ『感染症と人類の歴史』（全3巻）／おおつかのりこ 文、池田光穂 監修、合田洋介 絵の刊行

株式会社 ほるぷ出版

事由Ⅱ『伝統の美がひかる！ 江

戸時代の天才絵師』（全5巻）／山下裕一 監修の刊行

（学校図書館出版賞大賞は該当なし）

学校図書館賞は、学校図書館における地道な取り組みを基盤とする研究、実践、運動を表彰するもので、「論文」「実践」「運動」の3部門が設けられている。今回、学校図書館賞を受賞した野口さんの論文は、広く一般読者を対象とした著作であるが、研究や実務に携わる人たちにとつても、現在の学校図書館をめぐる諸問題を考えるうえでの有用な資料となっている点が、高く評価された。

学校図書館出版賞は、学校図書館向きの優良な出版企画に対して出版社を顕彰するもの。今回の出版賞は、2021年5月～2022年4月までに出版またはシリーズが完結された図書が対象となった。表彰式は6月9日（木）、東京都内で開催された。

■全国SLA研究大会開催へ

紙とデジタルと子どもの学びを 深く掘りさげる大会に

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、「第43回 全国学校図書館研究大会」「新しい教育を拓く学校図書館～ICT活用の新たな可能性～」を動画（オンデマンド）配信によるオンライン形式で開催する。配信期間は8月3日（水）～31日（水）の予定。講演は、柴田博仁さん（群馬大学情報学部 教授）の「子どもの読書における紙とデジタルの使い分け～認知科学からの考察～」のほか、実践発表や講義などの各種分科会を設け、コロナ以降、急速に進む学校教育のデジタル化のなかで、学校図書館をどう位置づけ、子どもたちの学びに関わるようにしていくのか、さまざまな視点、事例の交換で深めよう。そして、学校図書館の今後の姿を再確認し、新たな可能性を探っていく大会を目指す。

■全国図書館大会群馬大会開催へ

織物の里・群馬より 図書館の未来を織りなす

公益社団法人 日本図書館協会、群馬県図書館協会ほか主催する「第108回 全国図書館大会群馬大会」が、10月6日（水）～7日（金）にオンライン形式で開催される。配信期間は10月6日（水）～11月30日（水）。大会テーマは「本と人が織りなす図書館の未来」。

全体会では、植松貴夫さん（日本図書館協会理事長）の基調報告が行われる。記念講演は「若手作

全国SLAでは現在、参加申し込みを受け付けている。対象は、学校図書館、学校図書館教育に関心のある人。全国SLA会員でなくても参加できる。参加費は7000円。参加登録をする、講演とすべての分科会を閲覧することが可能となる。

申し込み方法、分科会のテーマ一覧など、詳細は全国SLAサイトより確認できる。また、最新情報も随時、こちらへ掲載される予定。

●全国SLAサイト

<https://www.j-sla.or.jp/>

版流通」「多文化サービス」など16分科会が予定されている。10月6日・7日のライブ配信時には、Zoomによる意見交換を行う分科会もある。

参加には、事前の申し込みと参加費（3000円）が必要。申込期間は7月5日（火）～9月9日（金）。全国図書館大会群馬大会サイトより申し込みができる。同サイトでは、分科会のテーマや内容など、詳細が決まりしだい、随時発表される。

●全国図書館大会群馬大会サイト

<https://e-regi.jp/108th-taikei/>

優良読書グループの歩み (7)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

那珂川町図書館おはなし

ボランティアグループ「たま」

代表者 嶋崎 有子

栃木県那珂川町

〈推薦〉
栃木県読書推進運動協議会

私たち「たま」は1999年の町主催「おはなし人材養成講座」受講者が立ちあげたグループです。図書館で未就園児へのおはなし会の活動をするうちに、おはなし会の参加者が読み手として加入したり仕事などの都合で活動を休止する方がいたりなど、いくつかの変遷を経て、現在4名で活動を続けています。

図書館でのおはなし会のほかに、1歳児健診でのブックスタートや、小中学校への朝読時の訪問なども行ってきました。さらに近年では、高齢者施設からもお声がけいただき、また町内のマルシェでもおはなし会を開催するなど、活動の幅が広がり、うれしい悲鳴

でした。

結成以来ずっと月1回の勉強会を続け、それぞれが見つけたお勧めの本や、実際に読んだときの子どもの反応についてシェアしてきました。また、絵本を読むだけではなく、紙芝居や、素話を勉強するメンバーもいて、それぞれが新たな挑戦を続けてきました。手芸が得意なメンバーが人形を作り、昔話をもとに台本を書いた手作り人形劇も、3作を教えます。つぎはなにをしよう？ みんなが希望に燃えていました。

そこへ、突然の感染症の蔓延。すべての活動が止まってしまいました。聞いてくれる子どもたちの笑い声や、ときには真剣な眼差し。準備のための選書や練習、勉強会でのメンバーとの他愛ないやり取り。研修会と称しての、絵本カフェや話題の書店への遠征など。それらがとても大切な時間だったのだと、メンバーそれぞれが感じた数か月でした。

世の中が少し落ち着いて、久し

ぶりに開いた勉強会で、今回の原稿依頼をきっかけに、私たちのこれまでを振り返る時間が持てました。

個性さまざまな4人のメンバー

は、好みの絵本も持ち味もほんとうにバラバラです。おたがいのやり方を尊重しあい、まず、自分が楽しむこと。それがきつと子どもたちにも伝わるはず。その思いがひとつだったことが、20年以上活動を続けてこられた秘訣なのだろうと、言いあいました。

楽しみながらこれからもずっと。いつかは、みんなでワゴン車に道具を積みこんで、全国におはなしの出前なんて素敵かも。夢は広がります。そして、こんな私た



クリスマスにはスペシャル
おはなし会を開催！

ちと一緒に楽しんでくださるメンバーも、随時募集中です。

安八町読書サークル協議会

代表者 東 多賀美

岐阜県安八郡安八町

〈推薦〉
岐阜県図書館協会

安八町読書サークル協議会は、読書サークル、児童文学研究会、もくせい短歌会の3団体からなっています。

今から60年以上前にあつた教育委員会後援の読書会が活動の原点で、その活動を継承したのが読書サークルです。その後、活動内容の種類により団体が増え、現在の形になりました。普段は、各団体独自の活動をしています。年に数回の交流する場を持ち、各団体が主催する行事に相互で参加しています。

また、数年に一度の頻度で、協議会主催のイベントを行っています。最近では、ハートピア安八開館15周年にあわせて『英語落語ハートピア安八劇場』を神戸女学院大学の学生で英語落語家の、ぶりん亭芽りんさんを招いて開催しました。会員で役割分担してボス

絵本の修理は一冊一冊
ていねいに行われる



ターやチラシ作り、当日は会場の準備などを行い、本番を迎えました。予想以上に多くの方に楽しんでもらえました。

読書サークルの活動には、ふたつの柱があります。ひとつ目は毎月の「読書会」です。毎年テーマを決めて、関連本をテーマブックとして購入し、会員で順番に読み深めています。「文学散歩研修(年1回)」としてテーマにそつた場所に出かけたり印象に残る名言や格言を書いたためたりして楽しんでいます。ほかの2団体の会員にも参加を募り、よい交流の場になっています。

ふたつ目の活動が、本の修理ボランティアです。「読書のまち安

八」に住む子どもたちが幼少期から本に親しめることを願い、月に1回、心をこめて町内のこども園の絵本修理を行っています。

児童文学研究会は、自分の子どもたちによい絵本を読んでやりたいという思いが原点になり、家庭文庫や絵本講座から始まりました。現在は、目で見て楽しむ人形劇も加え、児童文学の研究を進めています。

もくせい短歌会は、3団体の中でいちばん最後に活動を始めました。名前は町の花「もくせい」から名づけました。安八町の人たちの生活の一部に短歌があるようになってほしいとの思いから活動が始まり、徐々に会員も増え、よい歌が詠めるように日々取り組んでいます。

安八町は、現在、ひとり当たりの図書の貸出冊数の割合が、岐阜県1位であり、全国でも上位に入っています。

「読書のまち 安八」で活動を続ける「安八町読書サークル協議会」もさらなる飛躍を目指して、今後ががんばっていききたいと思えます。

フルーツバスケット

代表者 瀬戸口美智子
宮崎県西諸県郡高原町

〈推薦〉
宮崎県読書推進運動協議会

フルーツバスケットが、読み聞かせの活動を始めてから、もうじき20年になります。名前は「いろいろなフルーツが籠に盛られているように、いろいろな本を子どもたちに読んでいきたい」と、みんなで話して決めました。

読み聞かせを始めたのは、学校で子どもたちに本を読んでみないかと先生に声をかけられたのがきっかけでした。最初はわが子が高原町立後川内小学校に通っている保護者数人で始めました。

現在は20代から60代の7人で活動していますが、10人以上で活動していた時期や、保護者だけでなく子どもたちのおばあちゃんや校長先生の奥さまと一緒に読み聞かせをしてくださった時期もありました。

メンバーそれぞれが仕事を持つようになり、読み聞かせをするのがむずかしくなつて、やめようかと話が出たこともありましたが、やめることはいつでもできるので、それまでは続けようと思つて、今日に至っています。それは、みんな絵本が好きで、聞いている子どもたちが目をキラキラさせて、喜んでくれる様子を見るのがうれしかったからだと思えます。

もちろん、読み聞かせを始めたころは自己流でしたが、さまざまな講習会に参加して、本の持ち方、読み方、選び方など勉強していききました。活動を始めたばかりのころは、宮崎県の読書活動推進指導者養成事業で数々の研修会が開催されており、参加して情報を得ていました。新しい絵本を見つけるの見えあい、おたがいに読み聞かせをして感想を言いあうなどしてつぎの読み聞かせに活用していました。

現在は、後川内小中学校の朝習時間での読み聞かせが活動の中心です。また、年に2回、保育所でおはなし会を行っています。そのほかにも、学校行事のひとつとして、小中学生と保護者を対象にした夜のおはなし会を行ったり、中学生の授業にうかがって読み聞かせについてお話ししたりすることもあります。

月1回のミーティングをして、読み聞かせをする学年の割り振りをしたり、本の紹介をしたりしています。そして、おはなし会が決まると、プログラムで使うペープサートやパネルシアター、牛乳パックシアターなどを手作りして、おはなし会を盛り上げる方法を工夫しています。

今後は新しいメンバーを加えながら、素敵な絵本を出会えることを楽しみに、仲間と読み聞かせを続けていきたいと思えます。

そして、絵本にふれた子どもたちが将来、自分の子どもに読み聞かせをしてくれたなら幸せです。



小中学校での読み聞かせは特別教室で行うことも

事務局よりお知らせ

●現在、当協議会からお送りする「3」が「迷惑メールフォルダ」に振り分けられてしまう事象が「me」などGoogleのメールサービスをお使いの方を中心に報告されております。お問い合わせへの返信がなかなか届かない場合は、「迷惑メールフォルダ」もご確認ください。

●『読書推進運動』お届け時期について
機関紙『読書推進運動』次号657号(2022年8月15日号)は、当事務局、印刷会社、発送業者の夏期休業により、8月18日出来、それ以降の発送となります。

●読書推進運動協議会 事務局
夏期休業のお知らせ
8月11日(木)～16日(火)

その間にメール・ファックスなどいただいたお問い合わせは、17日以降、順次お答えいたします。

みなさまにはご迷惑をおかけいたしますが、ご了承のほど、どうぞよろしく願います。

